

平成25年度愛知県がんセンター公開講座(第1回)のご案内
「これからのがん化学療法 ～外来治療の時代～」
= 平成25年6月23日(日)開催 =

< 講師からのメッセージ >

「もっと知ろう 外来化学療法」

がん化学療法といえば、長期間の入院を余儀なくされ、副作用に堪え忍びながら頑張らなくてはいけない治療、というイメージがあるのではないのでしょうか？

最近の化学療法は全く違います。多くの治療は外来治療として通院しながら行い、仕事や遊び、旅行など、普通の生活を送りながら日常生活の一部として行うことがあたりまえになってきました。

愛知県がんセンター中央病院では、この7月から新たな外来化学療法センターを開設しました。外来化学療法に関して、知りたいこと、わかって欲しいことをわかりやすくお話ししたいと思います。

中央病院 薬物療法部 部長 室 圭

「がん化学療法で薬剤師ができること」

「病院の中で薬剤師は何をしているか分からない。」とかつては言われてきました。しかしながら、チーム医療の進展と共にその一角を担う様になり、また、専門薬剤師などの認定制度の創設や大学薬学部の6年制への移行など社会的な地位も向上し、病院内において薬剤師は活動の幅を広げつつあります。

今回は、県立のがん専門病院であるという地域性と専門性の二面性を生かした独自の取り組みにより、新しい外来化学療法センターの開設に向け高い安全性を目指す薬剤師の活動をご紹介します。

中央病院 薬剤部 主任専門員 松崎 雅英

「患者さんが願う暮らしと外来化学療法」

皆さんの抗がん剤治療のイメージは、TVドラマによくある、病室で洗面器をかかえて吐いている姿でしょうか。現在は入院ではなく、外来通院で治療を受けている患者さんが大勢みえます。外来化学療法センターの看護師は、通院で抗がん剤治療を続けながら生活の質を維持し、できるだけ「やりたいことができる」ように、患者さん、ご家族と一緒に考えています。

今回は、どのように外来治療を行うのか、ご自宅での副作用対策はどうしているのかなど、実際の様子をお話させていただきます。

中央病院 看護部 がん化学療法看護認定看護師 小原真紀子